

特別展関連イベント

合同イベント(入場無料・申し込み不要)

せいなん+とうほくこどもワークショップ「東北の“すべらない話”」

日 時 | 7月5日(日) 午前10時～正午
 場 所 | 西南コミュニティーセンター
 内 容 | 東北学院大学の学生が博物館の取り組みなどをブースごとに楽しくお話しします。
 西南学院大学の学生のブースでは、七夕飾りをつくります。

ミュージアム・セッションII 「実学教育の拠点—大学博物館の役割と活動報告」

日 時 | 7月5日(日) 午後2時～午後5時
 場 所 | 西南学院大学博物館2階講堂

【第1部】 題 目 / 「大学博物館活動と実践的教育」
 講 師 / 安高啓明氏(熊本大学文学部准教授)

【第2部】 ①学生によるプレゼンテーション
 題 目 / 「被災地で展開する学生による移動博物館活動の報告」
 報告者 / 秋田彩絵さん・門脇花珠さん・前田諒さん・森山茜さん(東北学院大学4年・文化財レスキュー班)

②講演
 題 目 / 「みんなで活かす地域の文化資料 —「牡鹿半島・思い出広場」の活動から—」
 講 師 / 加藤幸治氏(東北学院大学文学部准教授)

せいなん おでかけワークショップ「おもしろセンス —手作りセンスをつくろう—」

日 時 | 7月11日(土) 午前10時～正午
 場 所 | 東北学院大学博物館
 内 容 | 白紙の扇子台紙に展示資料をスケッチしてオリジナルの扇子を完成させます。

公開講演会

日 時 | 7月11日(土) 午後1時30分～午後3時
 場 所 | 東北学院大学博物館

【第1部】 題 目 / 「デフォレスト館の“屋根”から仙台の近代を眺めたら…」
 講 師 / 加藤幸治氏(東北学院大学文学部准教授)

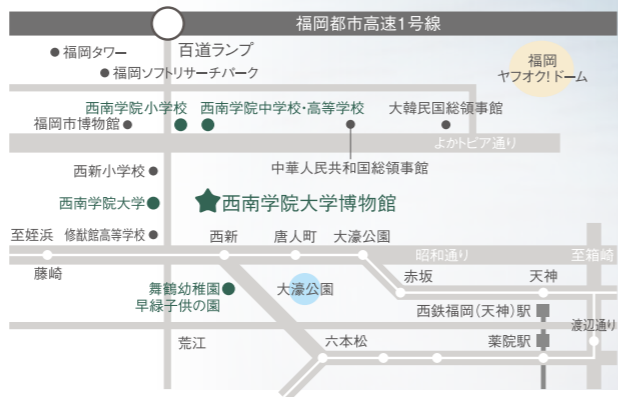
【第2部】 題 目 / 「日本キリスト教史のなかの東北」
 講 師 / 安高啓明氏(熊本大学文学部准教授)

.....

【ミュージアム・トーク】(午後3時～午後3時30分 in 東北学院大学博物館)
 講 師 / 内島美奈子氏(西南学院大学博物館学芸研究員)

アクセス

地下鉄	福岡空港	→ 西新駅下車	約17分
	博多駅	→ 西新駅下車	約12分
	天神	→ 西新駅下車	約8分
※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分				
バス	博多駅バスセンター	→ 修猷館前	約35分
	天神	→ 修猷館前	約20分
※修猷館前バス停から徒歩5分				
タクシー	福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約25分
	博多駅(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約20分
	天神(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約15分



せいなん

2015年度 春季特別展

大学博物館共同企画V

西南学院大学博物館

福岡市早良区西新3丁目13番1号 TEL.092-823-4785

2015.6.12|金|→8.4|火|

東日本大震災と文化遺産
—被災と復旧、そして文化創造へ—

会場 | 西南学院大学博物館特別展示室
 時間 | 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) 日曜休館 | 入場料 | 無料

絆・連携

東北学院大学博物館

宮城県仙台市青葉区土樋1丁目3番1号 TEL.022-264-6920

2015.6.12|金|→8.6|木|

キリスト教の源流と東方伝播
—受容と禁教、そして解禁—

会場 | 東北学院大学博物館特別展示室
 時間 | 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 日・祝日休館 | 入場料 | 一般200円



本展覧会は西南学院大学博物館・大学博物館共同企画シリーズ第5弾です。

同じキリスト教系の大学が連携し、所蔵する資料を相互に交換する“nexus(絆、連携)”と題した合同の展覧会を同時開催いたします。

東北学院大学博物館

「東日本大震災と文化遺産—被災と復旧、そして文化創造へ—」

Collaboration Exhibition of Touhokugakuin-Seinangakuin university museums.
"Great East Japan earthquake (March 11, 2011) and cultural heritages - Suffering, Restoration and Cultural creation -"

in 西南学院大学博物館会場

nexus

西南学院大学博物館

「キリスト教の源流と東方伝播—受容と禁教、そして解禁—」

The Origin of Christianity and the Propagation to the Eastern world
: Reception, Prohibition, and Removal of the Prohibition

in 東北学院大学博物館会場

I ミュージアムの復興に向けて

—学生主体による「石巻市鮎川収蔵庫」の文化財レスキュー活動—

For the revival of museums.

—The rescue by students of cultural assets of repository in Ayukawa, Ishinomaki City—

東日本大震災では、地震と津波の直接の被害によって多くのミュージアムや収蔵施設が壊滅的な被害を受けました。東北学院大学博物館は「石巻市鮎川収蔵庫」で被災した約4000点の考古・民俗資料を受入れました。学生たちの手による泥落としや脱塩、修復、整理作業を経て、現在は仮収蔵庫でミュージアム復活の日を静かに待っています。展示では保全作業とともに、学生たちが被災地で取り組んでいる移動博物館活動もあわせて紹介します。



II 伝統工芸の復興に向けて

—国の伝統的工芸品「雄勝硯」と国産天然スレートの現在—

For the revival of traditional crafting.

—The state of Japanese traditional crafting, "Ogatsu-suzuri" and domestic natural slate—

石巻市雄勝地区は東日本大震災の津波で、極めて甚大な被害を受けました。ここは、国の伝統的工芸品「雄勝硯」の産地であり、東京駅など日本を代表する近代建築の屋根材に用いられた国産天然スレート材：玄昌石の産出地です。職人たちは、道具を拾い集めるところから再出発し、様々な支援を受けて仮設の作業所や事務所で製作を始めています。現在は、クールジャパン海外戦略にも事業を展開し、産地復興への道の模索が続いています。



III 近代建築の価値再発見に向けて

—仙台の宣教師館「デフォレスト館」(国の登録有形文化財)の調査—

To rediscover value of the modern architecture

—Investigation into "Deforest building": Western-style building of propagators in Sendai City, which is registered for tangible cultural property in Japan—

東北学院大学土樋キャンパスには、国の登録有形文化財の建造物群があります。そのひとつ明治の洋館「デフォレスト館」は、東日本大震災の揺れで大きな被害を受けました。震災後、保存修理のための調査が行われ、技術や意匠の特色や建築当初の姿が明らかになってきました。この宣教師館の屋根には、第二部で紹介した美しい雄勝スレートが葺かれおり、今後の修理過程においては、スレート葺き技術継承の場としても期待されています。



I キリスト教の起源 —ユダヤ—

The Origin of Christianity. —Judaism—

ユダヤのひとびとの生活で使用される様々な祭具は、しばしば美しく豪華に飾られ、ユダヤの美術工芸品とされています。それらをおして、古代から現代まで受け継がれるユダヤの生活や多様なユダヤの歴史に迫ることができます。



メノラー
(西南学院大学博物館蔵)

II キリスト教の広まり

The Spread of Christianity.

キリスト教は、当初は西欧や東欧を中心として信仰され、早くからアフリカ大陸にも伝わりました。15世紀に始まる大航海時代を経ると、西欧による植民地支配の対象となった南米やアジアにも布教が開始されています。それらの地から生み出された祈念画、祈念像、祈祷書などを紹介します。



無原罪懐胎の聖母マリア像
(西南学院大学博物館蔵)

III 日本キリスト教史 —光と影—

Japanese history of Christianity. —The Bright and the Dark side—

1549年、フランシスコ・ザビエルがキリスト教を布教するため来日し、各地でキリスト教が受容され、南蛮文化が開花しました。しかし、日本では禁教の世になり、キリシタンたちは創意工夫して信仰を保ち、祈りを捧げていました。また、交易相手が変わったことで、南蛮文化にかわり紅毛文化が芽生え、日本に新たな時代が訪れました。



紅毛人硯屏
(西南学院大学博物館蔵)

IV 禁教解禁に向かって

To Remove the Prohibition of Christianity.

日本では対外列強の圧力により、禁教政策の維持は困難となっていき、1858年に日米修好通商条約を締結すると、キリシタン政策の転換を迫られました。1874年にキリシタン制札が撤去されてキリスト教信仰が許された後、外国人宣教師らが訪れ、200年以上もの時を経て布教が再開されていくことになります。



キリシタン制札
(西南学院大学博物館蔵)